

当センターにおける臨床検査技師の病棟・外来業務の紹介とその効果

○鈴木 淳史, 内海 寛, 長谷 健二, 眞々田 賢司  
(東千葉メディカルセンター 検査部)

**【目的】** 2015年10月に日本臨床衛生検査技師会は「臨床検査技師による病棟業務推進施設情報連絡会」を設置し、臨床検査技師の病棟業務への参入を積極的に推進する動きがみられている。しかし、それ以前より当センター検査部は、良質な検査データの提供と検査部からの情報発信を目的として、病棟・外来業務（以下ラウンド）を開始している。今回我々は、ラウンドにより得られた実効（費用対効果を含む）について報告する。

**【方法】** 病棟、手術室、外来処置室さらに救命救急センター（ICU、HCUを含む）へ、平日の午後にラウンドを行った。その内容は、検査に関する事項の患者、他職種への説明・指導や検査に必要な物品の使用状況の確認・管理を行った。

**【結果】** ラウンドは検査技師1名で行い、所要時間は約60～90分である。看護師からは採血に関することや特殊な項目の採取方法の質問が多く、これに対する説明会を実施した。また、検査に必要な物品の管理を行い、期限切れによる廃棄物品を防ぎ、不必要な在庫を減らす効果が認められた（2.5万円/月）。

**【考察と結論】** ラウンド開始当初は、各部署に検査技師がいることを、疑問に思うスタッフが多く見られた。しかし現在では看護師が苦手とする部分を補い、費用対効果を含め実効が確認できていることから、検査技師がラウンドすることを歓迎されている。  
連絡先 0475-50-1199（内線 7594）